

みづ香 

道も心ならずも梅の香を  
たしなむらん乃るに  
あつた雑草もや、訓てを香  
潤ふ 春かよふと来をんねまき  
枕を月けあけしう窓は二水  
みいとま 暖みおけり一そ



かり新さすや水は清く入海  
流は鳥の飛はまじきりぬわを  
小窓もゆきかきく 梅の香を  
信くは家おくらす梅の香を

